

## 2. 考察

### ■ 回答者について

性別については、男性が43.4%、女性が56.1%となっています。年齢については、70歳以上が24.9%と最も高くなっていますが、前回調査と比較して、18・19歳（2.9%）、20～29歳（11.5%）、30～39歳（16.5%）の割合が高くなっています。家族構成については、全体の約60%が「核家族世帯（親と子ども）」となっています。加古川市での居住年数については、全体の約70%が「20年以上」となっています。

職業については、「会社員、公務員」が約30%、「無職（学生、専業主婦・主夫を除く）」が約20%となっています。通勤・通学先については、全体の約30%が「加古川市内」となっています。普段利用する交通手段については、全体の約50%が「自動車」となっています。

結婚の状況と子どもの有無については、「結婚している」が全体の約70%、子どもが「いる」人が全体の約70%となっています。前回調査と比較して、結婚していない人、子どもがいない人の割合が高くなっています。

### ■ 定住意向と加古川市に対する誇りや愛着について

全体の約70%が「現在の場所に住み続けたい」と回答しています。男女ともに60歳以上では「現在の場所に住み続けたい」の割合が他の性年代に比べて高い傾向がみられます。

市内の他の場所や市外に移りたい人が転居したい理由については、「通勤、通学に不便だから」、「希望する仕事や魅力的な職場がないから」、「景観・まちなみに魅力が少ないから」などが上位に挙がっています。「希望する仕事や魅力的な職場がないから」は前回調査と比較して12.9ポイント増加しています。

加古川市に対する誇りや愛着の程度については、約70%が『感じる』（「感じる」と「やや感じる」の合計）と回答しています。

### ■ 市の政策に対する満足度・重要度について

満足度のスコアをみると、「下水道の整備」、「水道水の整備」、「救急・救命体制」などが上位に挙がっています。一方で、「バスの便利さ」、「地域特性を生かした効果的な土地利用」、「観光の振興」などのスコアが低くなっています。

重要度については、「安心できる医療体制」、「防犯・交通安全対策の推進」、「消防や救急・救命体制」などが上位に挙がっています。

重要度が高いが満足度が低い項目（重要度が平均以上かつ満足度が平均以下の項目）としては、「特別支援教育の内容」、「就学前教育・保育の内容」、「障がい者に対する支援」、「防災・防犯のための基盤の整備」、「青少年の健全な育成」、「高齢者に対する支援」、「地域福祉の推進」、「結婚・出産・子育てに関する支援」、「就業機会の確保や働き方改革の推進」、「幹線道路の整備」、「商業・サービス業の振興」、「生活に身近な道路の安全性や便利さ」、「ポイ捨てやペットのふん害防止」、「公共交通機能の充実」、「バスの便利さ」が挙げられます。

令和2年度から令和6年度の経年比較をみると、令和5年度から令和6年度にかけて、多くの項目でスコアが上昇していますが、目標値に至っている項目は少なくなっています。

## ■ 防災対策・防犯対策について

防災対策については、「家庭として取り組んでいるものがある」が約50%、「何も取り組んでいるものはない」が約30%となっています。

防犯対策については、「家庭として取り組んでいるものがある」が約50%、「何も取り組んでいるものはない」が約30%となっています。

## ■ 子育てと仕事に関することについて

加古川市が子育てしやすいまちだと感じるかについては、『感じる』（「感じる」と「やや感じる」の合計）と『感じない』（「感じない」と「あまり感じない」の合計）がそれぞれ約50%となっています。

子育てと仕事の両立について理解が進んでいると思うかについては、『感じる』と『感じない』がそれぞれ約50%となっています。男女ともに60歳以上では「感じない」の割合が他の性年代に比べて高い傾向がみられます。

## ■ 協働のまちづくりについて

市民活動の参加状況については、参加している人が全体の約10%となっています。前回調査と比較して、参加していない人の割合が高くなっています。

市民活動への参加意向については、『参加したい』（「ぜひ参加したい」と「機会があれば参加したい」の合計）と『参加したくない』（「参加したくない」と「あまり参加したいとは思わない」）がそれぞれ約50%となっています。

## ■ SDGsの取組について

SDGsの取組については、「名前は聞いたことがあり、おおまかな内容を理解している」が全体の約50%で最も高くなっています。男女ともに70歳以上では「知らない」の割合が他の性年代に比べて高い傾向がみられます。

SDGsを意識した行動を行っているかについては、「時々行っている」が全体の約40%、「あまり意識していない」が全体の約30%となっています。

## ■ 加古川市に対するイメージや魅力、今後期待することについて

加古川市に対するイメージについて、「未来を担う子どもや若者たちが元気に育ち、勉強やスポーツ・文化活動を楽しみながら、お互いが尊重しあって暮らせるまち」では、『あてはまる』（「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」の合計）が全体の約50%となっています。男性の20歳代、30歳代、女性の30歳代では「あてはまらない」の割合が他の性年代に比べて高い傾向がみられます。

「子どもから大人まで健康で安心に暮らせるまち」では、『あてはまる』が全体の約70%となっています。

「賑わいがあり、地域の活気を感じられるまち」では、『あてはまらない』（「あまりあてはまらない」と「あてはまらない」の合計）が全体の約60%となっています。

「身近に買い物できる施設や遊べる場所、病院があり、暮らしやすいまち」では、『あてはまる』が全体の約80%となっています。

「加古川をはじめ、海や山にも囲まれた自然豊かなまち」では、『あてはまる』が全体の約80%となっています。

利便性の高さや自然の豊かさについてのイメージをもつ人が多いことがうかがえます。

加古川市の自慢や魅力については、全体でみると自然の多さや、買い物や交通の利便性、住みやすさ、雰囲気等の良さが多く挙がっています。

年代別でみると、10歳代では「特産品の良さ」の回答が多く、「かつめし」についての記載が多くみられます。

将来、加古川市にどうなってほしいかについては、全体でみると子どもに良い環境であること、いつでも住みたい・戻ってきたいと思えること、交通の便が良いこと、安全に安心して暮らせることなどが多く挙がっています。

年代別でみると、20歳代から40歳代の子育て世代では、子どもに良い環境であることが多くなっています。50歳代から70歳代以上では、交通の便が良いことが多く挙がっています。

## ■ 加古川市の取組等の認知度について

加古川市の取組等の認知度については、「見守りカメラ」「棋士のまち加古川」が全体の約70%と高くなっています。前回調査と比較して、「見守りサービス」「スマートシティ」「加古川市防災ポータル」「子育てプラザ」「棋士のまち加古川」「かこがわまちづくり・ミズベリングかこがわ」「権現総合公園の整備」を知っている人の割合が高くなっています。